

富士紀行（28） 紙幣と富士山

昨日、富士学校後援会員でもある静岡県東部地区の経済界の重鎮の庄司氏が当校を訪問され、色々なお話を伺った。山梨県と静岡県が協同して富士山協会を近々に立ち上げるといってお話であった。

協会設立の推進役は食品会社「米久」（本社：沼津市）と富士急行（本社：富士吉田市）であり、静岡、山梨という枠を超えて富士山を共有の財産として日本のみならず世界に富士山をアピールしようとする一大試みであるようだ。富士山協会の発足を喜ばしく思うと共に充実発展を祈念するものである。

さて、「富士山協会」を **internet** で調べていたら、富士山が描かれた紙幣に関する記事があった。既に富士紀行14号において5千円札の富士山が本栖湖北岸から撮影されたものであるということ、同じく富士紀行23号において500円札の富士山が大菩薩連嶺雁腹摺山からの遠景であるとは書いたけれども、この500円札には1951年と1969年発行の2種類があるという。更には、1938年（昭和13年）発行の50銭政府紙幣があって愛鷹山からの富士山が描かれ、表に使われていたという。

（参考：各種 HP）